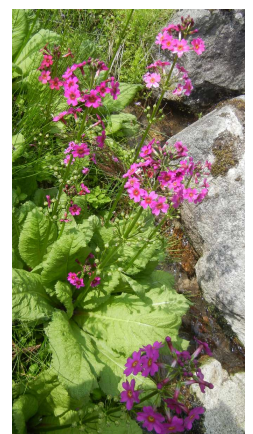


【スライド動画】

梅雨に先駆けて 山麓の湿地に ひっそり咲くピンクの花 クリンソウ

千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる 2015. 5. 20.

2015. 6. 1. by Mutsu Nakanishi



奥播磨 たたら山郷 千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウ 2015. 5. 20.

梅雨に先駆けて 山麓の湿地にひっそりと群生して、人知れずピンクのお花畑を作るクリンソウ。

地面際から大きな葉を放射状に出し、その中心から真っ直ぐ伸ばした細い花茎に数段、王冠状の輪形にピンクの小さな花を幾つも咲かせる。お寺の塔の九輪のように見えることから「クリンソウ（九輪草）」と名づけられた。

花言葉は「幸福をかさねる」。

派手さはないが、一つ一つが自立しながらも、相互に群集して自分の居場所をしっかりと守り、

幸福をゆっくりと積み重ねてゆく。梅雨前のひととき、緑の中の湿地に立つ愛らしいピンクの姿に惹かれる日本原産の花ですが、その群生地が年々減り、兵庫県では絶滅が危惧されている。

また、六甲山の高山植物園内の湿地で毎年この時期に花を咲かせ、新聞にその可愛らしい姿を届けてくれる。

2013. 7 月 久しぶりに訪れた奥播磨 千種 天児屋たたら跡で、このたたら跡を管理するおばさんと話して

「このたたら跡を訪れる人は本当に少ないが、毎年5月末、たたら跡一面に自生するピンクのクリンソウが咲き乱れるクリンソウの時期だけは 多くの人でにぎわう。是非 次はクリンソウが咲く 5 月末にいらっしやい」と勧められた。もう 通い始めて20年を越えるのですが、このたたら跡が輝く5月末に 一度 是非訪れたいと。

昨年は訪れられなかったのですが、昨年 6 月訪れた近代製鉄発祥の地 東北釜石の山中にある現存最古の橋野高炉跡で、周りの新緑に包まれて咲くピンクのクリンソウがとても印象的で、「たたら跡にはクリンソウがにあって 今年も千種のたたら跡に自生するクリンソウを訪れよう」と。

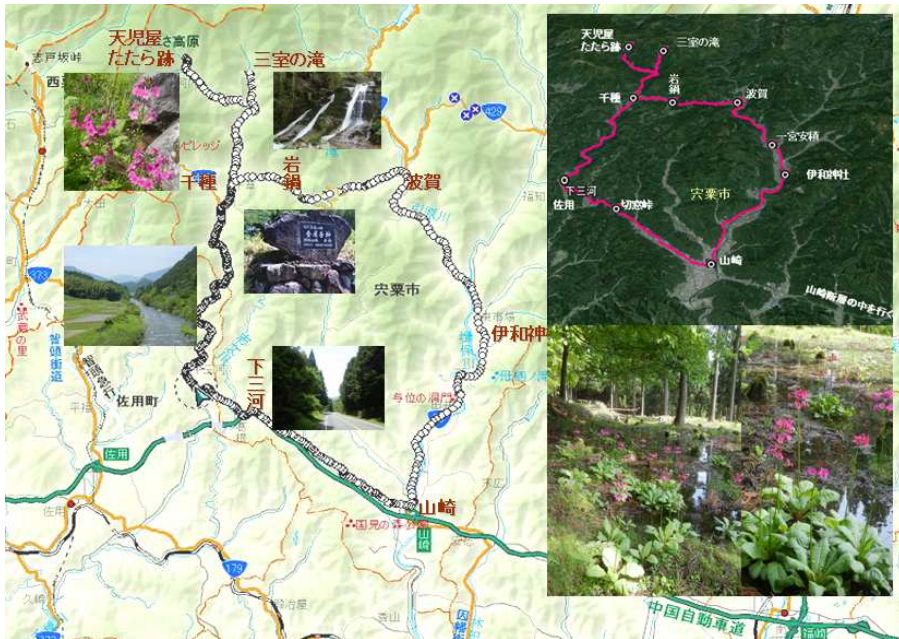
たたら山郷の中を歩く中国縦貫道



たたら山郷 奥播磨 千種 概要図

「兵庫の群生地いくつかで、梅雨に先立って初夏を準備するクリンソウが咲き出した」との新聞記事。

昨日 丹波市妙高山の群生地に咲くクリンソウを訪ねましたが、気になっていた千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウにも出会いたくて、5月21日 今日の朝 原チャリを奥播磨千種に走らせました。



「 谷川が流れおちね川縁に 石垣で整地された段々のたたら跡
幾つも真っ直ぐに直立するピンクのクリンソウに かつてそこで働いたたたら衆を見る 」

天児屋たたら跡の素晴らしいクリンソウ 「新緑に包まれたたたら跡には クリンソウが よく似合う」
たたらの郷に咲くピンクの可愛い花 素晴らしい景色にありがとう

知らなかったのですが、高校の親しい仲間の故郷が千種三室と知って、
すぐ近くの三室の滝にも立ち寄って帰りました。

今日は出会えませんでした、教えてくれた管理のおばさん

本当にありがとう

この自生地が年々ひろがり、このたたら跡が地域発信の場所になってゆけば・・・と

2015. 5. 20. 奥播磨 千種 天児屋たたら跡のクリンソウを眺めつつ

1. 神戸から 播磨の田園地帯・山崎断層を抜けて 千種へ

梅雨前の田植に忙しい播磨の田園 ・ 最近めっきり少なくなった蓮華畑に出会えました

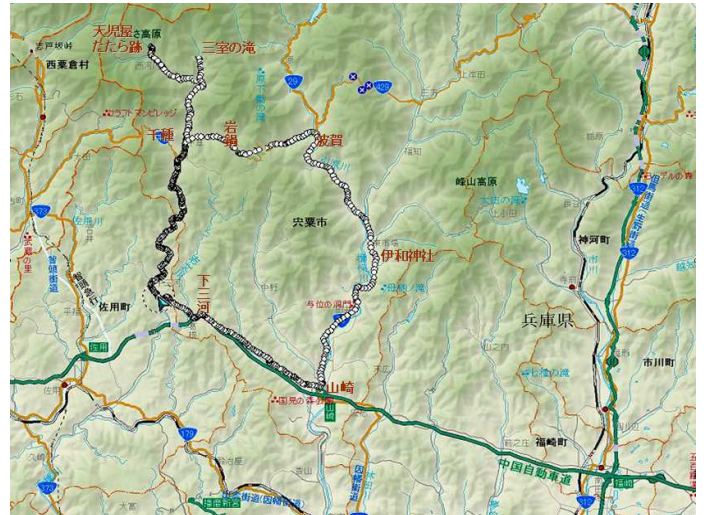


朝 神戸を原チャリで出発して西北へ。国道 175 号線から小野そして 青野ヶ原の丘陵を越えて 加西から福崎へそこから山崎断層の中 切窓峠を越えてゆく。西播磨の佐用・千種へ通ういつもの道である。播磨の田園風景を楽しみながら新緑の山間へ 神戸から約 3 時間ちょっとで佐用・千種にたどり着く自然を満喫できる楽しいたたら街道を行く。

今回はたたら跡に咲くピンクのクリンソウとの初めての出会いが楽しみ。

帰りはたたら製鉄伝承の岩鍋を通して山崎へ。

ジギタリスが咲き乱れるたたら跡 野々隅原へも立ち寄りたいが、無理だろうか。千種の三室山山麓へも立ち寄りたい。この街道はあっちも こっちも 立ち寄ってみたいたたら街道の痕跡ばかりだ。



2015. 5. 20. 朝に

神戸から東播磨の田園が広がる丘陵地を北西に横切ると福崎。福崎からは山崎断層の中を行く中国道に沿って山間を抜けると神戸から周囲の景色を眺めながら約 2 時間ほどで、宍粟市の中心山崎の街に入る。

さらに中国道沿いに山間を走って、切窓峠をこえてゆく。土万の志文川を渡り、北へ山間を越えると千種川の河岸段丘が広がる佐用町下三河の T 字路。南へ下れば佐用 北へ上れば千種川を遡って千種に至る。



切窓峠を西へ下ると千種川が流れ下る佐用町下三河 南へ行けば佐用 北へ上れば千種 2015. 5. 20.

中央を千種川が流れ下る山中に周囲を山にかこまれて、ちょっとした平地が広がり、その両側の山裾に田園と集落がある。

ここでは、なぜか まだ 田植えの準備作業が始まっておらず、蓮華畑が広がって美しいピンクの原に・・・

最近ほとんど見かけられなかった蓮華畑。流れ下る千種川の土手にあがって、蓮華畑と千種川の流れに見とれていました。

(昨年の集中豪雨による氾濫の傷跡で 休耕を余儀なくされた田園かもしれぬ)



蓮華畑が広がる下三河の田園 この中を流れ下る千種川を北に遡って 千種へ 2015. 5. 20.



2. 下三河から千種 天児屋たたら跡のある千種高原へ





梅雨前の快晴 田植え作業で忙しい 千種の田園で 2015.5.20.



千種の田園を流れ下る千種川 2015.5.20.

千種川の奥に千種の西北県境の山並み 左手 後山 右に笛吹石山 千種の町の手前 七野周辺より 2015. 5. 20.



千種の町を横目に見ながら まっすぐ北へ通り抜ける 2015.5.20.



千種の町を通り抜けると山間に 何處までも心癒い緑の道 2015.5.20.



千種町河合 千種高原・三室高原のT字路を左へ千種高原へ 2015.5.20.

千種を越えると千種川沿いの山合い ほどなく 千種高原へ左に折れる川井の分岐 2015. 5. 20.

この川井の分岐は真っ直ぐ北から三室川が流れ下る河内の谷筋と左手 西の岡山との県境から西河内の谷筋を流れ下ってくる千種川本流との合流点。かつて この分岐の河原で砂鉄を採取したことがありましたが、今は護岸が整備され、河川敷はきれいな公園に。西へ折れて、西河内の谷へ、すぐ山側の段丘の上が 以前資料を貰ったことがある高保木たたら跡との標識。丘に登りましたが、今は何もなく廃校になった小学校の門標の下に鉄滓の塊が置かれていました。



千種で出土した一番古い約 800 年前のたたら跡 高保木たたら跡 千種西河内で 2015. 5. 20.

高保木たたらからさらに西へ千種川に沿って遡って、西河内の小さな集落をいくつか過ぎ、傾斜がだんだんきつくなって、左へ蛇行する橋を渡ったその向こうに Y字路の「千種高原」の道路標識。ここを右に曲がり、千種川へそそぐ天兒屋川沿いを少し登れば天兒屋たたら公園である。



西河内の千種川と天兒屋川の合流点 右へ天兒屋川沿いの谷筋を少し遡れば天兒屋たたら公園 2015. 5. 20.

集落から杉木立の谷筋を奥に少し登ると左手に石垣・右手に学習館の建物が見え、天兒屋たたら前に入る。石垣の手前にピンクのクリンソウがみえる。

天兒屋川は道路からよく見えないが、左手の学習館の裏側を下に流れ下っている。

何度も来たことがあり、道はよく知っているが、クリンソウに出会えるのは初めて。

残念ながら、水曜日で千種のたたら関係の展示をしている学習館は休みで、以前お会いした管理のおばさんには出会えなかった。



3. 天児屋たたら跡に自生するクリンソウ群落

山の傾斜地に石垣で囲われて区切られたたたら跡のあちこちでピンクのクリンソウが咲いていました

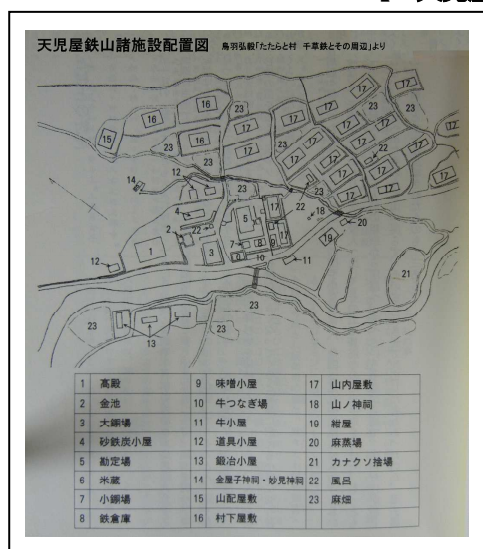


天児屋たたら跡に咲くクリンソウ 2013.5.20



天児屋たたら跡 2013.5.20

【 天児屋たたら跡の概要 天児屋たたら跡の案内板より 】



参考文献 鳥羽弘毅

『たたらと村』ほか

江戸時代後期に盛時を迎えた天児屋鉄山には、数十戸から百戸、数百人を越える従業者が居住していたと推測されるが、近代に入ると鉄価格の下落によって運営が困難となり、明治十八年ついに閉山された。

江戸時代に入ると、千種は徳川幕府の直轄地（天領）となり、天児屋鉄山は幕府から認可を受けた千草屋や鳩屋などの豪商「鉄山師」によって請負運営された。この頃には、刀以外にも生活用具の製造に必要な鉄の需要が増加し、山崎まで就航していた播磨川の高瀬船などを使って下流の姫路、さらに大坂方面へと出荷されるようになった。

千種で産出される鉄は、その品質の高さから「千草鉄」の名で珍重され、特に中世、備前長船（現・岡山県瀬戸内市）の刀匠達は、それを原料に数多くの名刀を作り出した。

城跡を思わせる整然と積まれた石垣が残る天児屋鉄山は、高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など複数の建物群で構成されていた大規模な製鉄施設の跡である。天児屋鉄山の主な操業期間は、江戸時代前期から明治十八年（一八八五）までの二百五十年余りと推定されるが、発掘調査の結果から、製鉄遺跡としての歴史はさらに中世まで遡ることも考えられている。

兵庫県指定史跡

天児屋鉄山跡

所在地 六粟市千種町西河内字新口

【指定年月日】 平成十四年四月九日

【概要】



上流側 高殿側から天児屋たたら跡全景



天児屋鉄山下流側上部から眺めた天児屋鉄山
写真左手 多々良の里学習館 中央 木々に囲まれて山の神 奥 高殿



勘定場前より下流側
千種 天児屋鉄山 全景

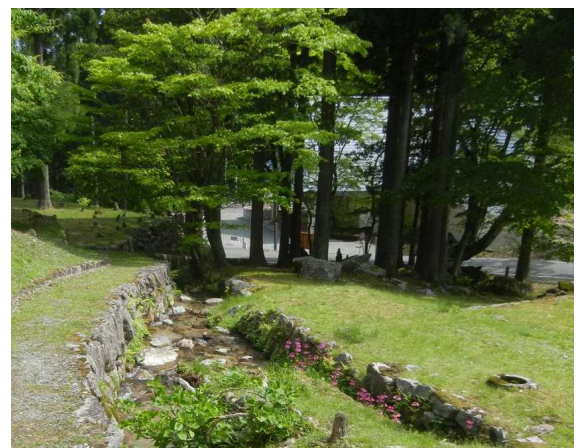
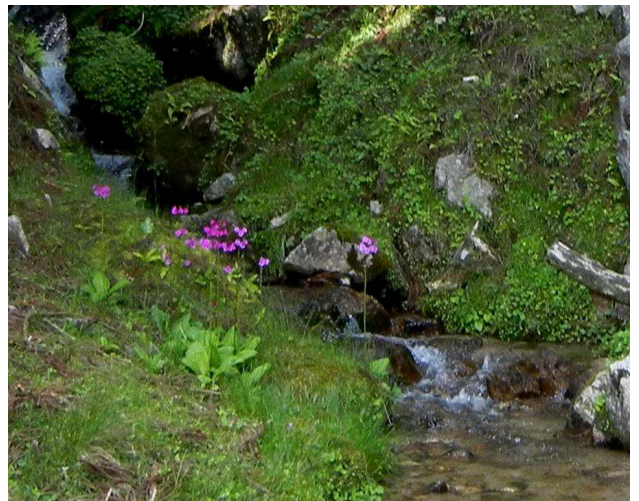
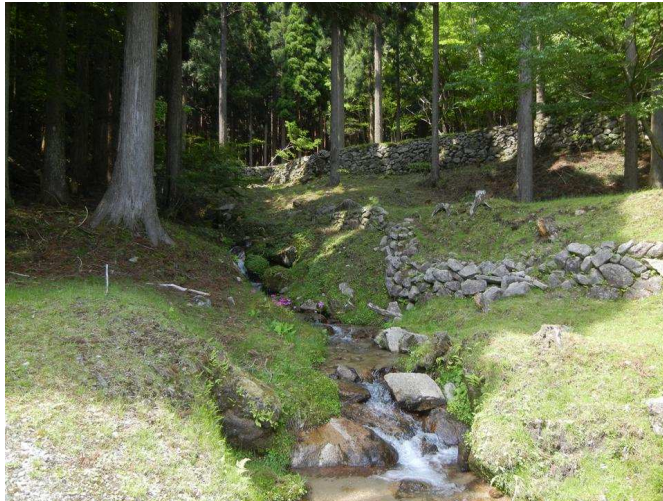


下流側 山ノ神の手前 学習館前より
2013.7.19.

2013.7.19. 訪れたし資料より転記



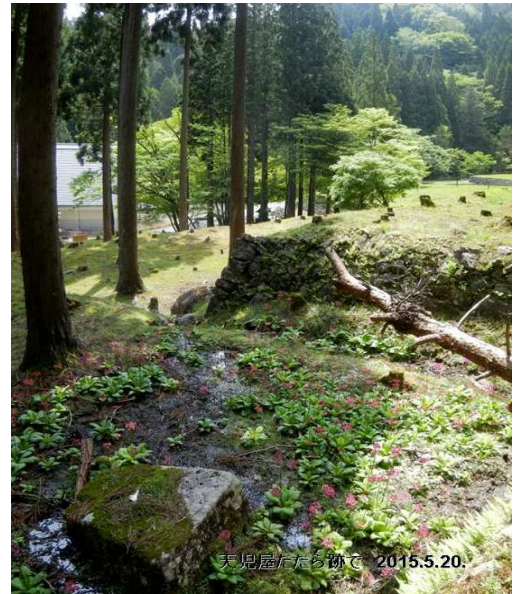
2013.7.19. 訪れたし資料より転記







天児屋たたら跡で 2015.5.20.



天児屋たたら跡で 2015.5.20.



天児屋たたら跡で 2015.5.20.





たたら自然と溶け込みあって咲くクリソウ

初夏の風をたたら跡に吹き込む可愛い花だと



4. 三室山麓 河内の谷筋へ



千種へのT字路から逆に北へ、河内・三室山への道に立ち寄る 2015.5.20.

クリンソウが咲く天児屋たたら跡を後にして、今回もう一つ是非 今回足を踏み入れたい場所がある。

帰りは この三室山から流れ下る三室川沿いの河内の谷筋に立ち寄りたい。

最近インターネットをチェックしていて、

「上流に三室山鉄山があった河内川の大きな滝 [爛鍋ノ滝 別名 三室の滝] の下

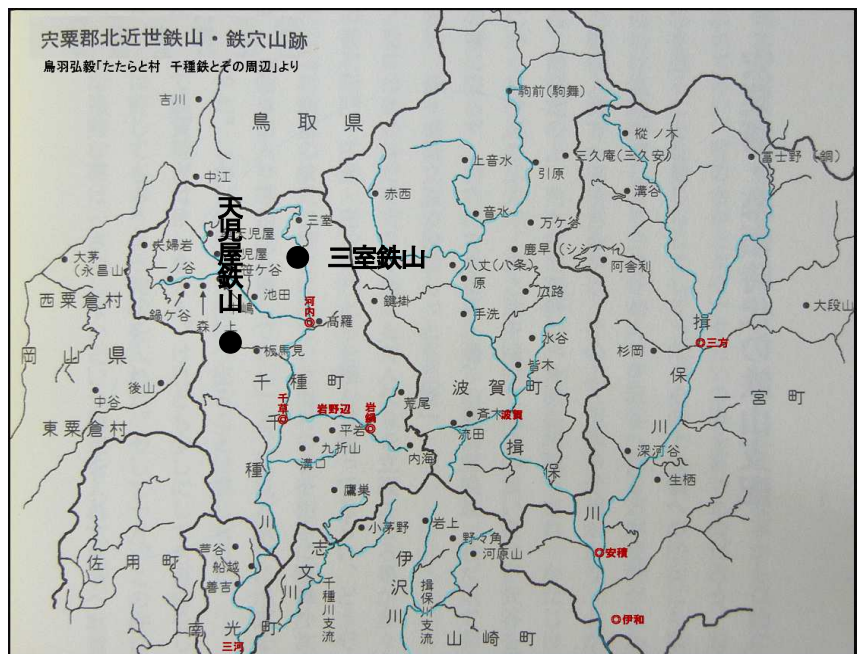
で金糞（鉄滓）を採取した」との記事を眼にした。この三室川が流れ下る河内の谷筋へは「そのうちに」と思いつつ、足を踏み入れたことがない。入ったことがない。

この三室川沿いの谷筋河内もたたら郷で、江戸時代 河内の谷筋へ入るところに高羅鉄山 一番奥に三室鉄山があったというのが、詳細はよく知らずそのままになっていたところである。

西河内の谷筋 千種川沿いを下り、千種川

と三室川との合流点川井から、北に折れて、三室川が流れ下ってくる河内の谷筋に入る。

この谷筋も田園地帯が広がる明るい三室川の谷筋で、奥の三室山へと続く道筋には田園が広がり、点々と集落がある。



川井から10数分遡って、集落から三室山にかかるところに、三室高原・三室の滝の大きな案内板がありました。



川井から奥へ 三室川の川筋に広がる河



三室川沿いに集落が点々と並ぶ河内を三室山に向かって遡る



google eatth より



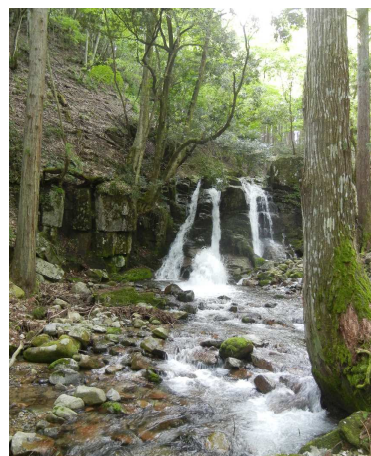
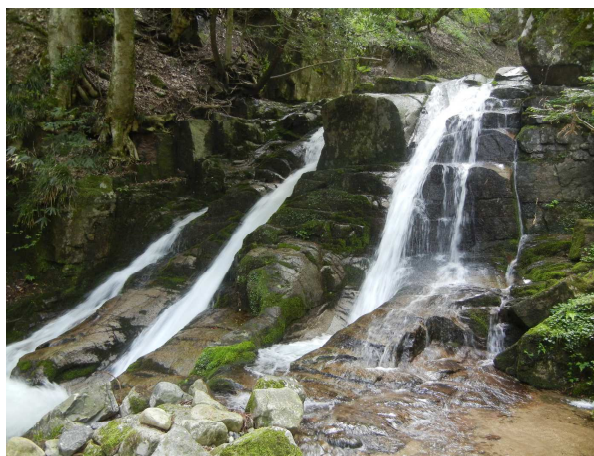
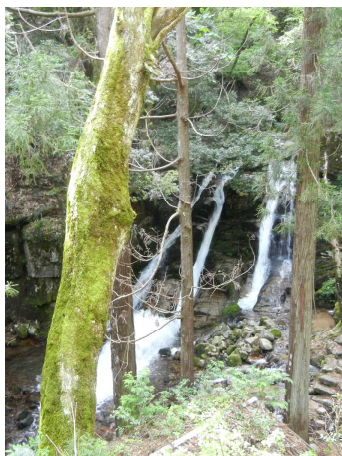
川井から 10 数分で三室山の入口 三室高原の案内板があり、左手 三室川の崖ぶちに三室の滝の案内板がありました

google eatth より

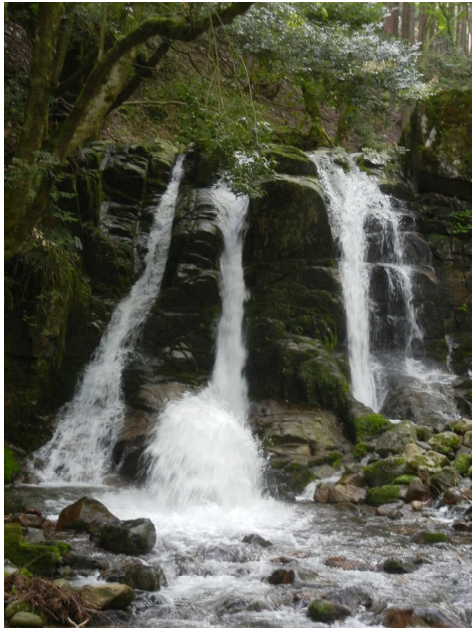
道路の左手 三室川の崖下に三室の滝 そして道路を挟んで右側には素晴らしい新緑の三室山の森が広がっていました。
時刻は午後 2 時 50 分。 今日はこちらまでと決め、三室川に下りて、三室の滝 そして新緑の森にも入ってきました。



三室高原 三室の滝 入口で 2015. 5. 20.



三室高原 三室の滝 2015. 5. 20.



三室高原 三室の滝 2015. 5. 20.



素晴らしい新緑の森 三室高原で 2015. 5. 20.



5. 古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承地 千種 岩鍋



製鉄神 金屋子神と千種 古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍粟(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。



村人にタタラによって鉄を作ることを教え、様々な道具を作る技術を入々に授けた。そして、「これから西の方へ行き、鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と、白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立ったと言う。

河内から千種へ戻り、今度は千種川沿いを南に下らず、千種の町から東へ 国道 492 号線で、途中 岩野辺・岩鍋を通して 鳥ヶ峰を新しい鳥ヶ峠トンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町へ出て宍粟市山崎へ揖保川沿いを下る。

かつては交通の難所であり、また、この山中にも数々のたたら跡がり、特に途中 岩鍋は古代の製鉄神金屋子神の降臨伝承地とされ、街道沿いにその碑がある。





この地が金屋子神降臨伝承地といっても すぐにたたら製鉄と結びつくものはないが、この道の両側に広がる山中には数多くのたたら跡が点在している。

碑のすぐ横には 以前見かけなかった岩野辺自治会が整備した荒尾鉄山跡の案内看板がたっていましたので、案内板に従って集落の中に入りましたが、集落のはずれに猪対策の扉があり、さらに奥荒尾山の方向に落ち葉に覆われた道が続いていました。今日はここまでと・・・。

以前から気になって調べていた住友泉屋と千種のたたらとの関係で この荒尾山鉄山は泉屋（分家）とも関係のある鉄山と資料にあった鉄山。もう 夕方近く 次回まわしで ゆっくりたずねようと・・・。

集落の人に聞くと 扉からほんの少し登って脇道に入れば、江戸中期から明治前期の荒尾山鉄山跡で、山中にその遺構が残っていると聞きました。

また、この岩鍋の碑から直ぐ東が鳥ヶ嶋トンネル。かつては難所だったところで、長いトンネルを抜け、まっすぐ下れば 揖保川水系の引原川が流れ下る波賀町 鳥取と山崎を結ぶ国道29号線に出る。

千種から東へ 岩野辺から山越えて揖保川水系の波賀町青木へ
国道429 鳥ヶ嶋(とりがたわ)道路と鳥ヶ嶋トンネル 開通

千種から岩野辺を通り内海を経て鳥ヶ嶋を越えて西谷村(現・穴栗市)に至る「岩野邊道」が当道路の由来とされる。昔の本道路(は岬を境に岩野辺側は比較的緩やかで、青木側は急傾斜となっていた。急峻な谷間から峠越えるルートのため、大型車のすれ違いが困難で、さらに冬季の積雪による通行止めが頻発するなど、交通の障害となっていた。これらを解消するため、トンネルを含む道路の改築事業に着手し、鳥ヶ嶋トンネル 開通とともに 2008年11月11日にとりがたわ道路全体が供用開始された。



長いトンネルを抜けると波賀町斉木の集落に出て、そのまま長い坂を下ると正面の山際の引原川の橋。引原川沿いを下ってきた鳥取と宍粟市山崎とを結ぶ国道29号線に出て、あとは真っ直ぐ川沿いを南へ下れば30分ほどで宍粟市の山崎である。



長いトンネルを抜けると波賀町斉木の集落
千種川水系から揖保川水系にあっけなく出る

久しぶりの長い原チャリツーリングでしたが、新緑のたたら山郷をかけぬけた心地よい一日でした。この地に通いだして約20年ですが、たたら跡に咲くピンクのクリンソウを見るのは初めてイメージを膨らませながら訪ねた千種天児屋たたら跡に自生するクリンソウも本当に心地よい風景たたら跡によく似あうと。

また、気になっていた三室山の河内の谷筋そして久しぶりに古代製鉄神降臨の地 岩鍋にも行けました何度来ても 新鮮な千種での一日でした。

2015.5.20. タ 原チャリを走らせながら by Mutsu Nakanishi



【関連 Iron Road ご参考まで】

1. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」2013.7.19.

千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる。

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm>

2. たたら山郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる

奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花のWalk

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>

【参考資料】 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」

【和鉄の道・Iron Road】西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪

1. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地	2001.1.	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf		
2. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて	2003.11.	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf		
3. 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡探訪 一宮町	2004.2.	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf		
4. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町	2004.6	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf		
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原	2007.10	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf		
6. たたら山郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる	2009.6.21.	↓
奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大国牧場 花のWalk		↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/8iron07.pdf		
7. 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 たたら山郷 宍粟市山崎町小茅野〈こがいの〉集落を訪ねる	2010.7.20.	↓
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf		
8. 「初期大和政権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 ↓		
西播磨で古墳時代後期末の銀冶用跡が出土 有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる	2011.3.	↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf		
9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一箇神」を祭る「天一神社」を訪ねる	2012.8.	↩
佐用 西播磨佐用町〈旧南光町〉林崎		↩
http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf		